

# 電動アシスト自転車 BM-APX263PS

## 取扱説明書 最終ページ保証書付 Ver. 1.1

品質保証書及び、自転車点検チェックリスト付ですので、大切に保管して下さい。

**自転車を安全で快適にご使用いただくため必ずお読みください。**

お買い上げありがとうございます。お求め頂きました自転車の性能を十分に引き出し、いつまでも安全にお乗りいただくために、正しいご理解で使用していただくことが必要です。ご使用方法を誤りますと大きな事故につながりかねません。お乗りになる前にこの取扱説明書を良くお読みいただき使用いただくようお願いいたします。

### ※取扱説明書をお読みいただく前に下記項目をご覧ください。

- ・ 購入後は必ず自転車取扱専門店における有技術者の初期点検および定期点検を実施してください。
- ・ 本自転車は日常生活用として設計されています、業務用としてはお使いにならないでください。
- ・ お買い上げ店舗にてご確認のうえ、必ず防犯登録を行ってください。
- ・ 自治体によっては、保険の加入が義務づけられています。自治体の指示に従ってください。
- ・ お子様のご使用の場合は、保護者の方が必ずよく読んで正しい乗り方と注意事項などについて、わかりやすくご指導ください。
- ・ 取扱説明書は読んだあと大切に保管して、必要に応じてご活用してください。

### 警告表示について

警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますので特に注意してください。

 警告	取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。
 注意	取扱いを誤った時に使用者が、障害を負う危険が想定されるとき及び、物的障害のみの発生が想定されるもの。
 禁止	危険の程度と関係なく、道路交通法で禁止されている行為（荷台等に二人乗りをする等）又は、当自転車ではいけない行為。
 強制	使用者に必ず実行していただきたいこと。

●品質・性能の向上及びその他の事情により、予告なく仕様変更をおこなう場合があります。

●本書のイラスト、写真は、イメージです。  
お買い上げいただいた自転車とは、形状、デザインが異なる場合があります。

# 目次

---

安全上のご注意	・・・・・・・・・・	P1
・自転車	・・・・・・・・・・	P3
・バッテリー、充電器	・・・・・・・・・・	P5
電動アシスト自転車について	・・・・・・・・・・	P7
各部のなまえ	・・・・・・・・・・	P8
お乗りになるまえに	・・・・・・・・・・	P9
・ペダル、前カゴの取付	・・・・・・・・・・	P9
・乗車前の調整・点検	・・・・・・・・・・	P10
・交通ルールを守りましょう	・・・・・・・・・・	P13
乗りかた	・・・・・・・・・・	P14
・発進のしかた	・・・・・・・・・・	P14
・アシストモードについて	・・・・・・・・・・	P15
・前照灯(LEDライト)について	・・・・・・・・・・	P16
・変速機について	・・・・・・・・・・	P16
停止、駐輪、施錠のしかた	・・・・・・・・・・	P16
充電のしかた	・・・・・・・・・・	P17
バッテリーについて	・・・・・・・・・・	P19
お手入れと保管	・・・・・・・・・・	P20
故障かな?と思ったら	・・・・・・・・・・	P21
・自転車	・・・・・・・・・・	P21
・充電器、バッテリー	・・・・・・・・・・	P22
防犯登録について	・・・・・・・・・・	P23
幼児用座席取付について	・・・・・・・・・・	P24
点検・整備チェックリスト	・・・・・・・・・・	P25
仕様	・・・・・・・・・・	P26
品質保証規定/保証書	・・・・・・・・・・	未巻

# 安全上のご注意

- ◆ ご使用の前に必ず、この「安全上のご注意」を良くお読みいただき正しくお使い下さい。
- ◆ お子様がお使用の場合は、保護者の方がこの「安全上のご注意」を必ずお読みいただき正しい乗り方をご指導下さい。
- ◆ ここに示した注意事項等は、製品を安全に正しくお使いいただく為に、誤った扱いをする  
と生じることが想定される事を危険・警告・注意の3種類に区分した、安全に関する重要な  
内容ですので必ず守ってください。

 危険	「死亡」や「重傷」を負うおそれが大きい内容です。
 警告	「死亡」や「重傷」を負うおそれがある内容です。
 注意	「傷害」を負うことや「物的損害」が発生するおそれがある内容です。

 	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

 <b>【警告】</b>	
	改造や分解はしない。 部品の破損などによって、外れて転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	調整後の締め付け（車輪・サドル・ハンドル・バッテリーなど）を確認せずに乗らない。 車輪やサドル、ハンドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
	サドルやハンドルの引き上げ限界点標識が見えるまで上げない。 サドルやハンドルの折れや抜けによる、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	異常がある場合は乗らない。 異常があるまま走行すると事故や転倒によるけがのおそれがあります。
	飲酒運転は禁止。 ヘッドフォンを使用しながら、傘を差しながら、携帯電話・スマートフォンを使用しながらの運転はしない。かぜ薬などを服用しているとき、また体調が悪いときは乗らない。 転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	荷物をハンドルや手にかけてたり、ペットをつないで乗らない。 荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。

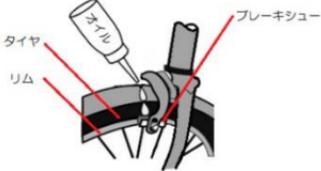


# 【警 告】

 禁止	かかとの高い靴や、滑りやすい靴を履いて乗らない。 足がペダルから外れて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	飲酒運転は禁止。 二人乗りは禁止。 *6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合や幼児二人同乗用自転車を除く
 禁止	雨・風・雪のひどいときは、乗らない。 バランスをくずし、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	次の様な運転はしない。 ヘッドフォンを使用しながらの運転・傘を差しながらの運転・携帯電話、スマートフォンを操作しての運転。
 禁止	走行中に手や足で前照灯の角度調整はしない。 *停止した状態で、前照灯の角度を調整してください。 前方不注意となり、転倒や衝突・手足が車輪に巻き込まれけがををするおそれがあります。
 禁止	凹凸の激しいところを走らない。 *歩道の段差や溝など フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。降りて押して歩いてください。
 禁止	合図以外は、ハンドルから手をはなさない。 バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	カーブで曲がる側のペダルをさげない。 ペダルが地面と接触し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
 禁止	巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させてのらない。 *長いスカートやマフラー、傘など 車輪やギアに巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	傘や釣りざお、ステッキ等車体に差し込んだり下げたりしてのらない。 車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	スポークの間にボール（固形物）などを入れて走らない。 車輪に巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	走行以外には使わない。 踏み台代わりなどに使用すると、転倒によるけがのおそれがあります。
 強制	自転車用ヘルメットを着用。 頭部の保護のために有効です。 幼児を同乗させる場合も必ず自転車用ヘルメットを装着させてください。

# 安全上のご注意（自転車）

 禁止	けんけん乗りしない。 転倒や接触事故によるケガの恐れがあります。
 禁止	前ブレーキだけのブレーキ操作はしない。 転倒によるケガの恐れがあります。
 強制	購入後は必ず自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。 組立て前や、未調整の自転車に乗られますと、通常の運転が出来ず転倒や衝突によるケガの恐れがあります。
 強制	前後ブレーキ動作やハンドル・車輪の固定、タイヤ空気圧などの乗車前点検をおこなう。 異常があれば、転倒によるケガの恐れがあります。空気圧が適正でないパンクやリム破損による転倒でケガの恐れがあります。
 接触禁止	回転部分に手や足、物を近づけない。 巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	巻き込まれやすい服装では乗らない。 スラックス、スカートの裾、マフラーなどは車輪やギアに巻き込まれ、転倒によるケガの恐れがあります。
 強制	ご使用開始から2ヵ月以内に販売店で、自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。 ご使用開始から2ヵ月位で各部のネジがゆるむことがあります。
 禁止	スピードを出しているときは急ハンドルの操作をしない。 急カーブでスピードを出し過ぎない。 スリップや転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	夜の無灯火での運転は交通違反です。 視界が悪い時（夜間、トンネル内、霧など）は無灯火で走らない。 見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 自動車からも見えにくくなり危険です。 前照灯が故障していたり、リフレクターが破損あるいは汚れている場合は自転車を押して歩いてください。
 禁止	自転車を走行以外の目的で使用しない。 腰掛けや踏み台など目的外のことで使わないでください。 転倒によるケガの恐れがあります。 スタンドを立てたままペダルを強く踏み込まないでください。 駆動補助機付自転車の特性で発進しようとする場合があります。

 <p>禁止</p>	<p>ブレーキシュー、タイヤ、リムには注油しないこと。 ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガの恐れがあります。</p> 
 <p>禁止</p>	<p>走行中は電源スイッチ、アシストモードスイッチ、ライトスイッチの操作をしない。 前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 必ず停車した状態で操作してください。</p>
 <p>水ぬれ禁止</p>	<p>水洗いはしない。 浸水により電気部品や配線の絶縁が劣化して、漏電など故障の原因になります。</p>
 <p>強制</p>	<p>走行中に異音が発生したり、自転車が転倒したり、水に浸かってしまったなどで異常が発生した場合は直ちに使用を中止し、保証書記載のサポートセンターまでご連絡ください。 そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>走行中に残量表示ランプ等を注視しない。 表示に気を取られ、前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。</p>
 <p>強制</p>	<p>1年ごとにお近くの自転車販売店で自転車安全整備士、自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。 また、部品の交換は下記の目安で行ってください。 ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブレーキワイヤは、異常が無くても2年に1回は、交換してください。</li> <li>●ブレーキレバーの遊びが大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 ブレーキが効かない恐れがあります。</li> <li>●ブレーキゴムは、溝の残りが1mmになる前に交換してください。</li> <li>●チェーンのたるみの大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。</li> <li>●タイヤは、接地面（トレッド）の溝が無くなる前に交換して下さい。</li> </ul>

# 安全上のご注意 (バッテリー、充電器)



## 【危険】

 禁止	バッテリーを火中に入れたり、過熱をしない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	バッテリーに衝撃を与えたり、分解や改造はしない。 ケースの破損、感電、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	端子 (+ -) に金属などを接触させない。 感電や液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	アシスト自転車専用バッテリーですので、他の機種・機器・用途には使用しない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	火のそばなど高温の場所での充電・使用・放置はしない。 自転車本体からバッテリーを外して充電して下さい。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	充電器のケース・コードやプラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
 禁止	日差しの当たるところで充電しない。高温になる環境を避けて充電をする。 異常発熱を引き起こす原因になります。
 強制	バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する。 他の充電器を使用すると、発火・異常発熱・故障・破裂のおそれがあります。
 強制	バッテリー液が目に入った時は、こすらずきれいな水で十分洗い流しただちに医師の治療を受ける。 失明のおそれがあります。



## 【警告】

 禁止	充電器の分解・改造や端子間のショートはしない。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
 禁止	傷ついたまま使用しない。 ケースなどを破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明のおそれがあります。異常発熱や破裂のおそれもあります。

## 【警告】

 水ぬれ禁止	衝撃を与えたり、落下や水漏れ、高湿度な場所での使用はしない 発熱、発火、感電のおそれがあります。
 禁止	幼児、ペットなどが触れる可能性がある場所には放置しない。 感電、ケガ、故障、火災の原因になります。
 禁止	充電器は専用バッテリー以外使用しない。 バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。
 禁止	バッテリーの液が衣類や皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗いながす。 皮膚に傷害を及ぼすおそれがあります。
 禁止	充電中は上に物を置かない。 内部が発熱して、火災のおそれがあります。
 禁止	充電器本体に、電源コードを巻きつけて保管しない。 電源コードなどが断線し、傷んだまま使用すると感電、故障、火災の原因になります。
 ぬれ手禁止	電源プラグをぬれた手で抜き差ししない。 感電するおそれがあります。
 強制	電源プラグは根元まで差し込む。 不完全な差し込みだと、感電や発熱による火災の原因となります。
 強制	電源プラグや充電端子についたほこりなどは取り除き、油などは付着しないようにする。 感電や発火のおそれがあります。

## 【注意】

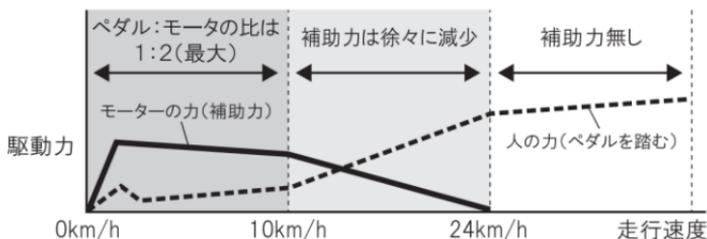
 強制	充電中は、同じ箇所を長時間皮膚に触れさせない。 温度が40℃～60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。
--	---

# 電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は普通の自転車と異なり、ペダルアシスト付きの自転車です。  
電動アシスト自転車についての正しい知識を身につけましょう。

## ●ペダルアシストとは

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助力を加えて走行を助ける機能です。



下記のようなときはペダルアシストが働きません。

### ●速度が24km/h以上のとき

※速度が24km/h以下でも平地などペダルの負荷が少ない道路では、ペダルアシストが働かない場合があります。また、速度が24kmに近づくと補助力は徐々に減少していきます。

### ●走行中にブレーキレバーを握るとモーター電源が切れ、一時的にペダルアシストは働きません。

※ブレーキレバーを握るとモーター電源が切れる、断電ブレーキ仕様。

### ●ペダルの回転を止めているとき。

### ●バッテリー残量が少なくなったとき。

※バッテリー残量が少なくなるとペダルアシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。

## ～走行できる距離の目安～

1回の充電で走行できる距離は

### ●26インチ 最大約35km (平坦な道での走行)

条件：バッテリー新品、温度20℃、無風状態、前照灯消灯、車載質量60kg  
(乗員および荷物を合計した質量)、アシストモード エコ、標準空気圧、平坦な道路。

※走りかた、道路状況、気候などにより1回の充電で走行できる距離は異なります。

特に整備状態、積載質量の増加や登り坂が多い場合、ペダルを強く踏み込む走行が多いなど、ペダルアシストの走行できる距離が短くなります。

※バッテリーの特性上、冬季は走行できる距離が短くなりアシスト力が低下することがあります。

※バッテリーの特性上、充電回数の増加に従い、1回の充電で走行できる距離が短くなります。

※走行距離はあくまでも目安で、1回の充電による走行距離を保証するものではありません。

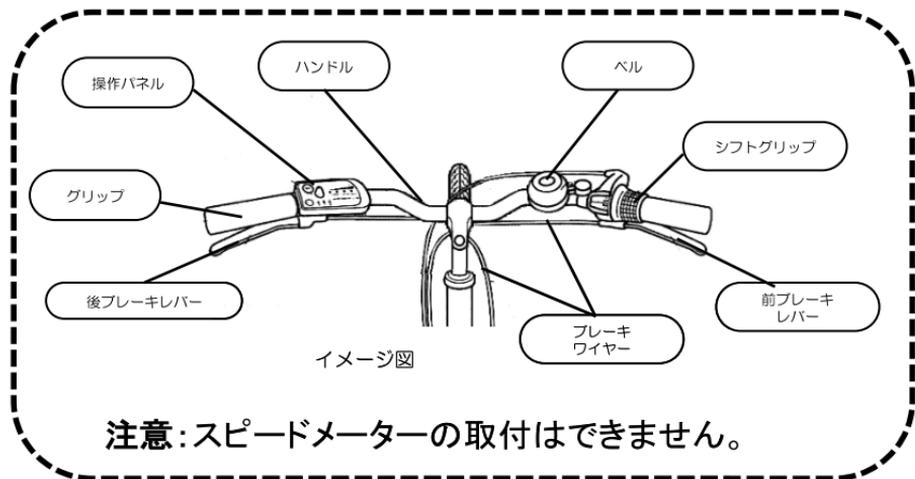
## 付属品の確認

自転車本体のほかに下記のものがすべて含まれることをご確認ください。

- バッテリー・バッテリー充電器
- 取扱説明書(保証書付)
- 盗難補償登録はがき
- 簡易工具(簡易スパナ、六角レンチ)

# 各部のなまえ

## ハンドル部



# お乗りになるまえに

## ■ペダル取付け手順

※ペダルには、右用（R）と左用（L）があります。

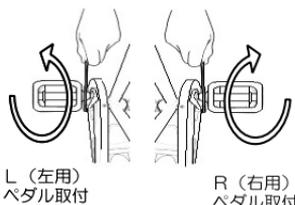
- ①ペダルの軸の端面に「R」（右用）、「L」（左用）の刻印があることを確認してください。（左用の軸にはギザギザの刻みがありますので確認してください。）
- ②右用のペダルは右足をのせる方に、左用のペダルは左足をのせる方にネジをしめるように取り付けてください。左右でねじ方向が逆になっていますのでご注意ください。  
左右を間違えて無理に取り付けるとネジ山が破損することがありますので必ず正しく装着してください。



イメージ図



- ③ペダルの取り付けは、はじめに手で締められるところまで締めた後、スパナ/付属の専用工具等でしっかりと本締めしてください。最後にがたつき等がないか確認して下さい。



## ■前カゴ取付け手順

### ■前カゴ取付部品一覧

※内容を変更することがございます

- |                |               |
|----------------|---------------|
| ①底板・・・・・・・・1個  | ②ネジ・・・・・・・・4本 |
| ③ナット・・・・・・・・2個 | ④ワッシャー・・・6個   |

### ①底板の取付

付属の底板をカゴ脚の下側に添えて、カゴと底板でカゴ脚を挟み込み、ネジ2本にワッシャーを装着しカゴ内側から底板のネジ穴に入れて仮止めします。

### ②背面部の取付

左右ハンドルから出ているワイヤー類をカゴブラケットの上部で交差させて、前カゴを取付する。ネジにワッシャーを装着しカゴ背面内側からブラケットの穴にネジを通し、反対側からワッシャー・ナットを付けて仮止めします。

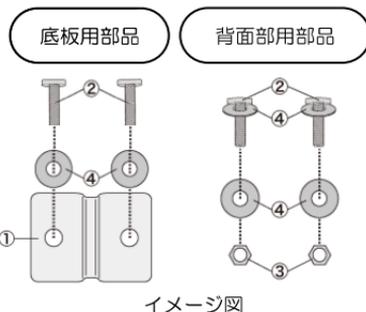
### ③カゴの位置を調整し本締め

①・②の仮止め後、カゴ位置とカゴ脚位置を調整して本締めを行います。

外側からスパナ等でナットを固定し、内側からドライバーでネジを締めて取付完了です。

\* フレーム側カゴ脚も締付を行い緩みを確認して下さい。

\* スパナ・ドライバーは付属しておりません。



イメージ図

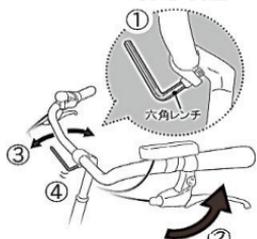


# お乗りになるまえに

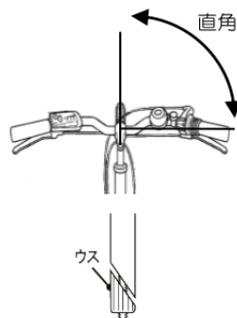
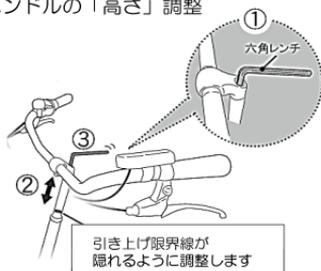
必ず乗車前に調整・点検をしましょう

## ■ハンドルの調整

・ハンドルの「角度」調整



・ハンドルの「高さ」調整



\* ステムのボルトを緩めすぎると、ウスが引き上げ棒から外れてしまうので緩めすぎないこと。  
(ウス：ハンドルを内部で固定する部品)

- ①六角レンチでステム下のボルトを緩める
- ②ハンドルを起こす
- ③ハンドルの角度を合わせる
- ④ステム下のボルトを固く締める

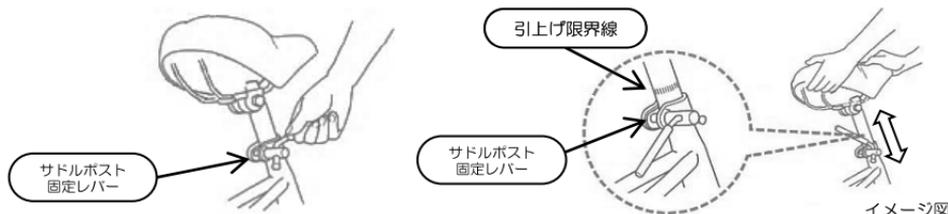
イメージ図

- ①六角レンチでステムのボルトを緩める
- ②高さを合わせる  
※引き上げ限界線が隠れる位置に合わせる
- ③ハンドルが前タイヤに対し、90°(直角)になるようにシステムボルトを固く締める

## ■サドルの高さ調整

サドルの高さは、両足先が地面につくように調整してください。

- ①サドルポスト固定レバーを充分にゆるめずに高さの調整を行うと、シートポストを傷つけることがあります。
- ②サドルを上下に動かして高さの調整を行い、サドルを持ってサドルポスト固定レバーを締付けます。
- ③サドルを上下に左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- ④締めつけ後サドルの固定レバーは図の範囲内の位置になるよう収納して下さい。



**【警告】** 引き上げ限界線以上に引き上げないでください。  
引き上げ限界線がフレームパイプにかくれる位置で調整してください。

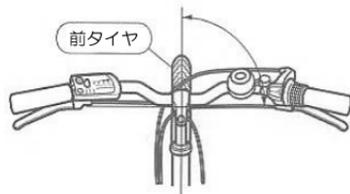
正しい服装で乗りましょう

動きやすく運転しやすい服装で、自転車に乗ってください。  
\*裾の広いズボンなどはズボンバンドで止めて、巻き込みや汚れを防止してください。

# お乗りになるまえに

## ① ハンドルののがたつき・・・イラスト

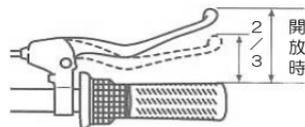
ハンドルを上下左右に動かし、のがたつきがないか点検しましょう。  
ハンドルが前輪に対して90度（直角）になっているか点検。



イメージ図

## ② 前後ブレーキレバーの握りしろ・・・イラスト

ブレーキレバーが開放時の約2/3の位置で、  
ブレーキが効きはじめることを点検。



イメージ図

## ③ LEDライトの点灯

汚れ・破損がないか点検します。汚れは拭取り損傷している場合は  
交換してください。

また、LEDライトが点灯するか確認。

## ④ 前後車軸の固定状態

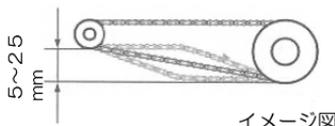
タイヤをゆすり、のがたつきがないか点検。

## ⑤ ペダルのがたつき

ペダルをゆすり、のがたつきがないか点検。

## ⑥ チェーンの張り具合・・・イラスト

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～2.5mm  
あれば適正です。



イメージ図

## ⑦ バッテリーの取付・残量の状態

確実に取り付けられているか点検。

バッテリー残量があるか確認。

## ⑧ サドルのがたつき

サドルを上下左右に動かし、のがたつきがないか点検。



矢印方向に引くと  
ベルが鳴る

イメージ図

## ⑨ ベルの鳴り具合・・・イラスト

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検。

## ⑩ 前後タイヤの損傷・摩耗

摩耗やタイヤに釘などがささっていないか点検。

## ⑪、⑫ ホイールリフレクタ、リアリフレクタの汚れ・損傷

汚れ、損傷がないか点検。

汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。



イメージ図

## ⑬各部ネジの締付確認

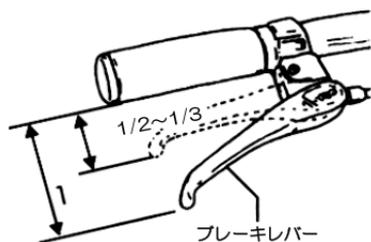
緩みがある場合には、ドライバーやスパナ等で締付を行う。

点検で異常があった場合、部品の変形などの異常があった場合、  
異音や違和感を感じた場合は、乗車しないでお近くの自転車販売店又は、  
サポートセンターまでご相談下さい。

# ●こんなとき

## ブレーキの調整

- ブレーキは安全に乗るために一番大切なものです。いつも最高の性能が発揮できるように乗車前には必ず点検してください。
- ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが $1/2 \sim 1/3$ くらいでブレーキが効くようにしてください。



ブレーキワイヤーは1年ごとに交換してください。サビやほつれの異常を感じた時はすみやかに交換してください。

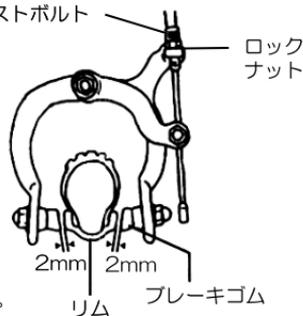
## ブレーキレバーの遊びと調整

- ブレーキを長期間使用するとブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの効きが悪くなります。その場合、ロックナットを一時的にゆるめて、ブレーキゴムを両側からリムに押しつけるようにしてアジャストボルトをゆるめてブレーキレバーの遊びを調整し、ロックナットを締めなおします。リムとブレーキゴムの隙間が左右平均して2mmくらいが適当です。

### ワイヤ式前ブレーキ

- ロックナットをゆるめ、指でブレーキゴムを両側からリムに押しつけるようにしアジャストボルトを左に回して調整します。調整後はゆるめたロックナットをよく締めつけてください。

アジャストボルト



### ワイヤ式後ブレーキ

- ロックナットをゆるめ、アジャストボルトを左に回して調整します。アジャストボルトを回し過ぎると車輪の回転が重くなりますので、注意してください。調整後はゆるめたロックナットを締めつけてください。



ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を自分で行なわないでください。

- 次の場合は販売店にご相談ください。
  - ①アジャストボルトで調整し切れない場合。
  - ②片効きしている場合。片効きしていると、リムとの適切な隙間が得られないばかりか、ブレーキゴムが常にリムに当たりブレーキゴムの摩耗が激しくなります。
  - ③ブレーキゴムはリム側面にきちんと合っていますか。ブレーキをかけたときにゴムがタイヤに当たっているとタイヤ切れの原因となります。また、リム側面からブレーキゴムがはずれているとブレーキゴムの片べりを起こします。
  - ④ブレーキゴムが摩耗して溝の残りが1mmになった時はブレーキゴムを交換してください。
  - ⑤ブレーキの効きが悪くなった場合。

# お乗りになるまえに 交通ルールを守りましょう

2015年6月より改正道路交通法が施行されました、交通ルールを守りましょう

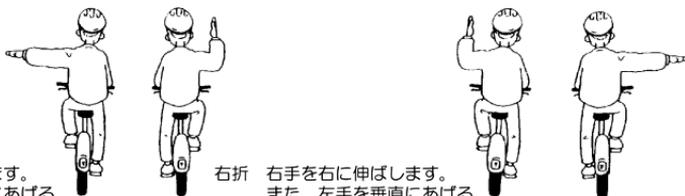
- ・自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。また、2人乗りは危険ですので絶対にやめてください。

## ●走行中は

道路のいちばん左を走るようにしましょう。後方・右側・前方の安全を常に確認してください。

## ●曲がるときは

曲がる方向に30mくらい手前から、手で合図しましょう。



左折 左手を左に伸ばします。  
また、右手を垂直にあげる。

右折 右手を右に伸ばします。  
また、左手を垂直にあげる。

## ●一時停止しましょう

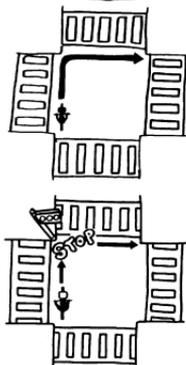
一時停止の標識があるときは停止しましょう。また、狭い道路から大通りに出るとき横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなどは必ず一時停止して安全を確かめてから走行しましょう。



## ●信号のない交差点では

左折するときは、後方を注意しながら早めに合図し、できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。

右折するときは、できるだけ左によって交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落としてから曲がりましょう。



## ●信号のある交差点では

正面の信号が青のとき、直進と左折ができます。右折の場合は、交差点の向こうまでまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青にかわってから進みましょう。

## ●横断するには

道路を横断したり、交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければなりません。

## ●歩行者優先

横断歩道では、一度止まってから歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

## 標識を守りましょう



自転車通行止め



通行止め



一時停止



横断歩道



自転車専用



自転車横断帯



自転車歩道通行可

# 乗りかた 発進のしかた

## ① スタンドを上げてサドルにまたがります。

スタンドはロックレバーを、後方に押し上げてから上げてください。

## ② 電源スイッチ（オン/オフスイッチ）を押すと、電源が入りランプが点灯します。

※ペダルを踏まずに電源を入れてください。起動時はバッテリー残量ランプが点滅し、2秒後に点灯に切り替わります。ランプが点滅している間はトルクセンサーの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。



イメージ図

## ③ 残量表示・電力表示ランプの表示状況を確認。

残量表示ランプは下表のようにバッテリー残量の目安を表示します。

イメージ図

バッテリー残量	残量表示ランプの表示状況	目安
	残量 LEDランプ3つとも点灯	電動アシスト 走行できます。
	残量 LEDランプが2つ点灯	
	残量 LEDランプが1つ点灯	そろそろ充電しましょう。 バッテリー残量が残わずかな状態です。
	残量 LEDランプが点滅	充電してください。 電動アシスト走行できない状態です。 電動アシスト走行はできませんが、普通の自転車として走行できます。

## 【注意】

- ペダルを踏みながら電源スイッチを押して電源を入れると急発進の危険があります。また、トルク感知装置が正常に作動しない場合があります。そのときは、ペダルアシスト力が弱くなる場合があります(故障ではありません)ので、必ずペダルに足を乗せていない状態で、電源を入れてください。
- バッテリーの残量が少ない状態（残量表示1点灯状態や点滅）のときに走行すると、走行条件によってはアシストが途中で切れることがあります。バランスを崩して転倒によるけがの恐れがありますのでご注意ください。
- 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中電池残量がなくなった場合ライトも消灯します。
- 電源を入れて5分以上放置するとエコモードが働き、自動的にOFFになります。
- 残量表示ランプが消灯していく間隔は、バッテリーの状態・走りかた・道路状況などにより異なります。走行中残量表示ランプが減り、停止中に点灯表示が戻ることがありますが、故障ではありません。
- お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、アシスト走行できる距離の目安としてください。

## ④安全を確認してから発進します

ハンドルをしっかり握り、前後左右の安全を良く確認してからペダルを踏んで発進してください。

ペダルを踏み込むとペダルアシストが働き作動音がします。

※走行中はペダルアシストの作動音がしますが、異常ではありません。



**警告**

**けんけん乗りはしないでください。**

転倒や接触事故によるケガのおそれがあります。必ずサドルにまたがってから発進してください。  
※けんけん乗りとは・・・片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた。

## 【お願い】

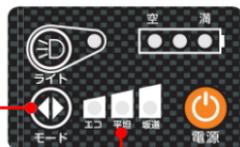
- 電動アシスト自転車はペダルを踏み込むと力強く発進しようとするのでご注意ください。停車中はブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないでください。坂道などの手前ではブレーキの効き具合を確認してください。
- 電動アシスト自転車は普通の自転車に比べ若干重たい為、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。人がいない安全な場所で良く練習してから走行してください。
- ペダルアシストを使用し走行すると、モーターからギア音が発生する場合があります。
- お客様が実際に走行される条件とバッテリーの残量表示ランプの表示状況を確認し、ペダルアシスト走行できる距離を把握してください。

## ⑤アシストモードについて

※電源を入れた時は「平坦」に設定されます。

- モード切替ボタンを押します。  
押すたびにアシストモードが切り替わり、ランプで表示します。

イメージ図



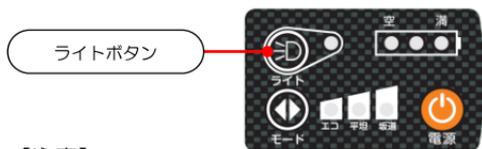
(注) アシストモード位置は一般的な使用例ですので、道路状況や体調などに応じて設定位置を選択してください。

モード切替ランプ

エコモード	「アシスト力」を抑え、効率良く走りたい場合におすすめ ・ペダルを踏む力が少なくてもよい場合など、アシスト力を抑え節電走行します。
平坦モード	平地中心に一定のアシスト力で走りたい場合におすすめ ・広範囲にお使い頂ける標準的なアシストモードです。
坂道モード	坂道など力強いアシスト力で走りたい場合におすすめ ・上り坂など力強いアシスト力は必要なときは、より楽に走行できますが電力の消費量は多くなり走行距離は短くなります。坂道のときにご使用ください。

## ⑥前照灯について

- 「ライト」ボタンを押すとライトが点灯・消灯状態に切り替わります。  
※電源ボタン「入」のとき
- 自転車の前方約10mの路面を照らすように照射角度の調整をしてください。



照射角度を調節します。



イメージ図

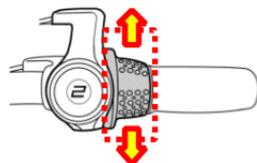
### 【注意】

- 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中アシストが切れた場合ライトも消灯します。

## ⑦変速機について

- シフトグリップを握って前後に回します。

前方：シフトダウン  
後方：シフトアップ



〔平地を走るとき〕

- シフトを2または3の位置に合わせる



〔上り坂のとき〕

- 上り坂の手前でシフトを2または1の位置に合わせる



〔下り坂のとき〕

- 下り坂の手前でシフトを3の位置に合わせる

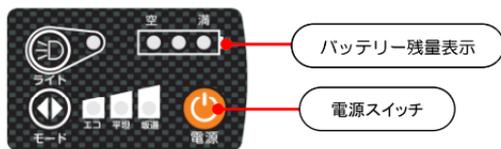


## 停止、駐輪、施錠について

### 1. 自転車を停止させ、電源を切ってから自転車を降ります

※前ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください。転倒につながり大変危険です。

電源の切りかた：電源スイッチを押し、残量表示ランプが消えたことを確認します。



イメージ図

### 2. 鍵をかけます

①ロックレバーを左側に回しながら反時計方向に押し「カチッ」と音がするまで回してロックします。

②キーを抜きます。

ロックの解除

キーを差し込み、キーをまわしてロックを解除します。

ロックレバー

鍵



イメージ図

### 【注意】

- 本製品は、バッテリーキーと共通となっています。
- 盗難防止のため、必ず施錠してキーを抜いてください。
- 雨ざらしになるところには駐輪しないでください。
- 家などの重要なガギと一緒に付けて紛失しないよう注意してください。

# 充電のしかた

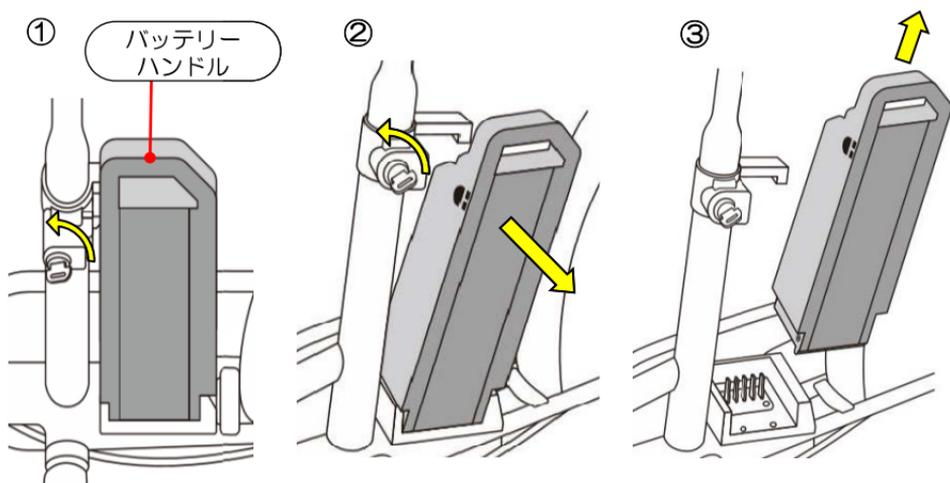
## 1 充電場所（下記条件をみたすところ）を決めます

- 風通しがよく湿気の少ないところ。
- 平坦で安定のよいところ。
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ。
- 周囲温度が0℃～40℃のところ。
- 水がかからないところ。
- 幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- 高温になる場所では行わないで下さい。またバッテリー、充電器の保管もしないで下さい。

## 2 バッテリーを取り外します

※電源ボタンを押して電源を切ってからバッテリーを取り外してください。

- ① バッテリーハンドルを持ち、鍵を鍵穴に差し込み反時計回りに90度まわします。
- ② 鍵を回した状態のままバッテリーハンドルを手前に倒します。
- ③ そのまま上に引き抜くように取外します。
- ④ 鍵を忘れずに、抜いて保管してください。



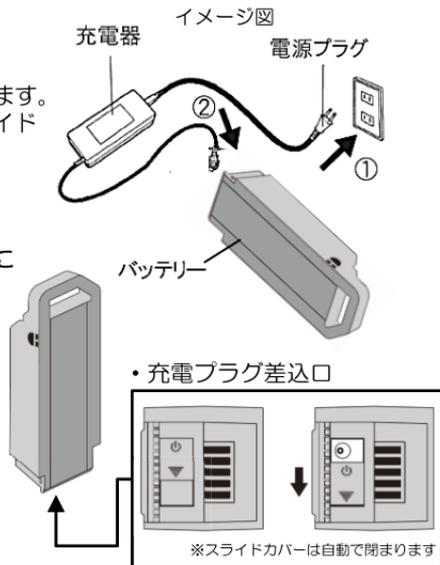
### 【注意】

- ・ 自転車本体から、必ずバッテリーを外して充電を行ってください。
- ・ バッテリーを取り外すときはバッテリーハンドルを持ちながらキーを回して下さい。
- ・ バッテリー本体を持たずにキーを回すとバッテリー本体が落下し破損、けがをすることがあります。

### 3. バッテリーを充電器に接続します

- ①電源プラグをコンセントに差し込みます。  
\*充電器本体のランプが緑色に点灯
- ②充電プラグ差込口はバッテリー本体底面にあります。  
底面にあるスライドカバーを矢印の方向にスライドさせて、充電プラグをバッテリーの充電端子にしっかりと奥まで差し込んでください。  
\*充電器本体のランプが赤色に点灯

※充電器の電源プラグをコンセントに差し込む前にバッテリーと充電器を接続すると、多少火花が出る場合があります。上記①、②の手順で作業してください。



#### 【注意】

- バッテリーと充電器を接続するときは、差込口が濡れていない、汚れがついていないことを確認してください。
- 傾いた所で充電しないでください。バッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。
- 充電プラグをバッテリーの充電端子にしっかりと奥まで差し込んでください。差し込みがゆるいとバッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。また、充電器の赤ランプが点灯せず充電できない場合もあります。
- テレビやラジオの近くで充電しないでください。テレビやラジオに雑音が入る場合があります。その場合は電気製品から離れたところで充電してください。

※バッテリーは工場出荷時、十分に充電されていません。ご使用になるときは充電してご使用ください。

### 4. 充電時間の目安（通常充電）

充電前のバッテリー状態や外気温などにより異なりますが、残量表示ランプが1つになってから充電した場合、約4時間です。

#### 【注意】

- ご購入後初回の充電では充電時間が多少長くなることがあります。
- 充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

#### 充電完了

充電器のランプが赤色から緑色に変われば、充電が完了となります。速やかに、充電プラグをバッテリーから外して電源プラグをコンセントから抜いてください。

充電器のランプ表示

赤ランプ	充電中
緑ランプ	充電完了

#### 【注意】

- バッテリーを充電器に接続したまま持ち上げると、ケガをする恐れがあります。
- 充電器の電源プラグ及び充電プラグは、コードを持って取りは外さないでください。断線など充電器の故障の原因となります。

## 5. バッテリーの取り付け ※取り付けるときにはキーを使用する必要はありません

※バッテリー取り付け部に異物がないか、濡れてないかを確認します。

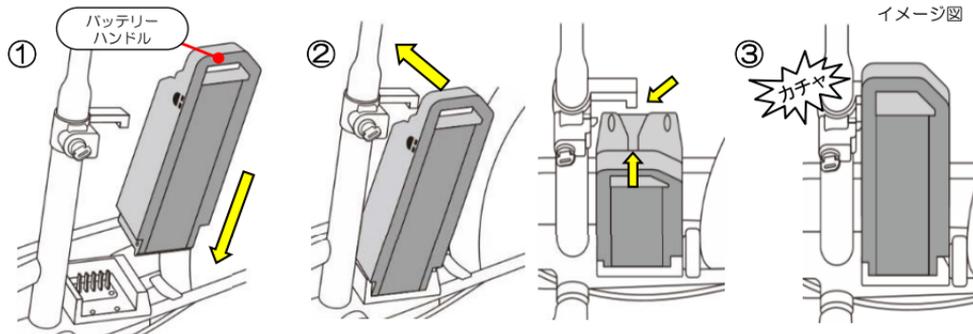
①バッテリーハンドルを持ち、車体側の手前の溝にバッテリー本体を合わせ斜めに差しこみます。

②バッテリーを矢印の方向に押しします。

このとき、バッテリー上部の溝と本体側のガイドを合わせるようにしてください。

③バッテリーを正常に取付けると自動的にロックします。

※しっかり固定されていることを確認してください。



※バッテリー横のボタンを押すと、インジケータランプによるバッテリー残量が確認できます。

## バッテリーについて

バッテリー交換の目安 バッテリーには寿命があります。

### ●バッテリー交換は有料です。

バッテリーの交換時期は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが、新品時より著しく短く（約半分以下）なったときが交換時期です。

### ●バッテリー交換時期の目安。

バッテリー交換時期の目安として、約300～500回の充電の繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が300回未満の場合でもご使用や保管の条件等により、1～2年程度の使用期間で一充電あたりの走行距離が著しく短く（新品時の約半分以下）なる場合があります。

※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなりアシスト力は低下することがあります。バッテリーを温度15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。また、ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。

※バッテリーは消耗品です。「バッテリー交換時期の目安」と保証期間は関係ありません。

## リチウムイオン電池のリサイクルについて

この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。

リチウムイオン電池はリサイクル可能な、貴重な資源です。

不要になったバッテリーは完全に放電（アシスト走行ができなくなるまで）

させてから、充電式電池リサイクル協力店にお持ちいただくか、

保証書記載のサポートセンターまでご相談ください。

使用済みの小型充電式電池のリサイクルにご協力願います。



# お手入れと保管

## お手入れについて

- 本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。
- 汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。
- 水洗いはしないでください。  
雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。  
浸水によって電気部品（モーター部、バッテリー部など）および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。

## 注意

シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ヒビ割れの原因になります。

- スポーク・ペダルシャフトなどのスチール部品は、布に防錆剤を吹き付けてください。
- フレームなどの金属塗装部は、汚れをふき取った後、布に少量のワックスをつけてみがきます。

## 保管について

1. 保管場所（下記条件を満たすところ）を決めます。
    - 風通しがよく湿気の少ないところ
    - 平たんで安定のよいところ
    - 直射日光や雨つゆの当たらないところ  
※雨ざらしになるところや高温になるところは避けて保管してください。
  2. 電源スイッチが「切」になっていることを確認します。
  3. タイヤ空気が減っているときは、空気を入れます。
  4. 鍵をかけます。  
※盗難防止のために必ず、鍵をかけてキーを抜いて下さい。  
※キーは紛失しないようにしっかり保管して下さい。
- 長期間（1ヶ月以上）保管されるときはバッテリーをはずし、30%程度充電して室内の高温にならない涼しい所で保管してください。  
また、使用しなくてもわずかつづ放電します。  
6ヶ月毎に1度10%程度補充電し、再使用時は満充電をしてからご使用ください。
  - 自転車を廃棄するときは、各自治体の指示内容に従って処理してください。

## ご 注 意 !

バッテリーとサークル錠のカギは共通となっています。  
3本付属していますのでカギを紛失しないよう  
大切に保管してください。

# 故障かな？と思ったら (自転車)



## 【警告】

- 次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、サポートセンターにご相談ください。
- 改造しないでください。分解や修理をしないでください。

こんなとき	調べるところ	直しかた
ペダルが重い。	電源スイッチがオンになっていますか。	電源スイッチをオンにしてください。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。 (標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または 自転車店に修理依頼をしてください。
電源スイッチを押しても残量 表示ランプが点灯しない。	バッテリーが充電されていますか。	バッテリーを充電してください。
	バッテリーは確実に固定されていますか。	バッテリーの取付状態を確認して ください。
走行できる距離が短い。	上り坂の連続走行や発進停止の 繰り返しなど、高負荷運転を されていませんか。	走行条件によって、走行できる距離は 短くなります。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。 (標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または 自転車店に修理依頼をしてください。
	長期間使用しないで保管 されていませんか。	バッテリーは自己放電します、長期間 保管するとバッテリー残量が減ります。
	前照灯が点灯されていますか。	前照灯を点灯した場合、走行できる 距離が短くなります。 異常ではありません。
バッテリーの取付ができない。	バッテリー取付部分などにゴミ などの異物はありますか。	異物などを取り除いてから、 batterie を取り付けてください。

# 故障かな？と思ったら (充電器、バッテリー)

こんなとき		調べるところ	直しかた
充電できない	充電器の赤または緑ランプが点灯しない。	電源プラグはしっかりと差し込まれていますか。バッテリーと充電器は確実に接続されていますか。	電源プラグをしっかりと差し込み、充電器にバッテリーを確実に接続してください。
	充電器の赤または緑ランプがゆっくりと点滅している。	充電直後ではありませんか。	充電後すぐに充電しようとしても、充電しないことがあります。満充電からの追加充電はしないでください。温度が下がってくると充電を開始します。
		周囲温度の高いところ（40℃以上）あるいは低いところ（0℃以下）で充電されていませんか。	バッテリーの内部温度が高いと、充電しないことがあります。涼しい所で充電してください。温度が下がってくると充電を開始します。温度が低い場合は室内などの暖かい所で充電をしてください。
		走行直後ではありませんか。	走行直後でバッテリー内部温度が高いと、充電しないことがあります。温度が下がってくると充電を開始します。
充電中、異常を感じたら (異音・異臭・煙がでるなど)			電源プラグを抜いてお買い上げ販売店にご相談ください。
充電器やバッテリーが熱くなる		手で触れられないくらい熱いですか	充電中は多少熱く（40℃～60℃）になりますが故障ではありません。手で触れないほど熱いときは異常です。電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にご相談ください。

# 防犯登録について

- 防犯登録は法律で義務付けられていますので、お買い上げの販売店または自転車用防犯登録所の看板のある自転車店にご相談ください。

BM-APX263PS



車体番号



イメージ図

- 盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- バッテリーキー紛失などの場合注文時に必要となりますので、バッテリーキー番号も本書に記入してください。

--	--	--	--	--

## TSマークについて

- TSマークは、道路交通法令の基準に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した自転車に貼付されます。自転車に貼られたTSマークは、はがさないでください。

※工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。

株式会社 カイホウジャパン	
	形 式
駆動補助機付自転車 型式認定番号	
普通自転車 型式認定番号	

# 幼児用座席の取付について

- 幼児用座席を取り付ける際、必ずご確認ください。
  - ・ 自転車の前部には、前部幼児用座席の取り付けはできません。
  - ・ 自転車に幼児用座席を取り付けるときは、本取扱説明書および幼児用座席の取扱説明書の指示に従ってください。
  - ・ 自転車に乗せることのできるお子様は一人です。
  - ・ 幼児用座席を取り付ける際は、お子様の足が車輪に巻き込まれないように、ガードが付いていることをご確認ください。
  - ・ 幼児用座席の取り付けは販売店にご依頼ください。  
お子様の体重と幼児用座席の重量の合計が27kg以下であることをご確認ください。
- 幼児用座席のご使用の際、必ずお守りください。
  - ・ お子様の安全についてはとくにご注意ください。お子様から目を離さないでください。
  - ・ お子様の体重が、幼児用座席が指定する最大適用体重以下であることをご確認ください。
  - ・ 走行中はお子様に自転車用ヘルメット（JIS T8134と同等以上）を着用させてください。
  - ・ ご使用の際は、必ず幼児用座席が後荷台などに、確実に固定されていることをご確認ください。
  - ・ 幼児用座席にお子様を乗せるときは、必ずスタンドのロックが確実にかかっていることをご確認ください。
  - ・ お子様を乗せたまま、自転車から離れないでください。
  - ・ ご使用の際は、必ずシートベルトを着用してください。
  - ・ お子様は自転車の回転部や作動部にさわらないように十分御注意ください。
  - ・ お子様は、自転車の近くにいるときは、お子様から目を離さないでください。

## 安全のための点検・調整

### 乗る前の点検

〔乗る前の点検〕とは、ご使用前に、毎日お客様ご自身でおこなっていただく最少限度の点検・調整のことです。「おのりになるまえに」に書かれた点検方法に従い、ご使用前に必ず実施してください。

### 定期点検・調整

〔定期点検・調整〕とは、末永く安全にご愛用いただくため、お客様に変わってお買い求めいただいた販売店などでおこなう点検・調整のことです。販売店（自転車組立整備士・自転車安全整備士）へご依頼ください。  
※料金は有料となります、あらかじめ販売店などにご相談ください。

# 点検・整備チェックリスト (点検時以外でも異常を感じた場合、点検整備をお受けください)

自転車は時がたつにつれて自然に劣化が出ます。

重要部品は、一定期間経過するたびに調整する必要がありますので、

定期点検をお受けください。(有料)

点検項目	2ヶ月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
大きさは乗り手の体格にあっているか												
サドルにまたがって、足が地面に届くか。またサドルの固定は確実か												
ハンドルの高さは適正か、また固定は確実か												
フレーム、前ホークに変形や亀裂はないか												
ヘッド、ハンガー小物にガタ・摩耗はないか												
どろよけはしっかり固定されているか												
リヤキャリアは片寄っていないか、しっかり取付されているか												
スタンドの取付と作動はよいか												
タイヤの空気は適正か、すりへっていないか												
ペダルはクランクと垂直になっているか												
クランクに曲がりないか、ガタつきはないか												
ペダルはなめらかに回転するか												
車輪の振れ、スポークのゆるみ、軸部のガタはないか												
ブレーキゴムなどすりへっていないか												
レバー間隔は正常で、前後のブレーキはよく効くか												
チェーンのたるみ、張りは適正か												
前照灯は点灯するか												
リフレクターは破損していないか												
ベルは良くなるか												
ギアチェンジは正確に作動するか												
定期点検・整備を実施した販売店ならびに年月日		年月日										

※書き方 点検・・・良好○ 不備×

# 仕 様

品番		BM-APX263PS
寸法	全長	1,895mm
	前幅	585mm
	サドルの高さ	760mm-880mm
タイヤサイズ		26インチ
質量		25.0kg
充電1回の走行距離 (当社指定パターン)		最大約35km (エコモード時)
変速機形式		内装3段変速 (シマノ製)
前照灯		バッテリー式LED前照灯
フレーム		U形
スタンド		両脚スタンド
ハンドル		セミアップハンドル
リアキャリア (積載重量)		27kg
錠前		シリンダー式リング錠
補助速度 範囲	比例補助	0km/h以上～10km/h未満
	逡減補助	10km/h以上～24km/h未満
駆動(動力)		前輪駆動モーター
モーター	形式	ブラシレスモーター
	定格出力	250W
制動装置	前輪/後輪	前：キャリアブレーキ 後：ローラーブレーキ
バッテリー	品番	HB-BA08
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	5.8Ah
	電圧	24V
充電器	電源	AC100V-240V
	充電時間	約4時間
乗車適応身長 (目安)		145cm以上

- 乗車適応身長は、サドルを一番下へ下げ車体正位状態で、両足のつま先が地面につく目安となる身長です。個人差がありますので目安としてください。
- この車種は、乗車体重を65kgで基本設定しています。65kg以上の方が乗車するとすぐに壊れてしまうというものではありませんが、著しくオーバーした体重の方が常用される場合には、車体や各部品などの消耗度合い、劣化度合いが大きく早くなるをご理解ください。
- 寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により誤差が生じる場合があります。
- 仕様変更などにより、写真・イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

# 品質保証規定

## 〈無料修理規定〉

- 保証期間はお買い上げ日より1年間。但し消耗部品等は除く。
- 取扱説明書の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。  
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には、商品に保証書を添えて頂き、お買い上げ販売店にお申しつけください。
- ご転居の場合の修理ご依頼等はお買い上げ販売店にご相談ください。
- ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、保証書に記載の相談窓口にご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。  
(イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷  
(ロ) 取扱い説明書に従わない使用方法（乗車定員、禁止事項の無視等）による故障及び損傷  
(ハ) 衝突・転倒・転落等の扱いの誤りによる故障及び損傷  
(ニ) 自転車が一般に走行しない場所を走行された場合の故障及び損傷  
(ホ) 業務用（荷物運搬、新聞配達等）・営業用（レンタルサイクル等）・不特定多数で使用された場合の故障及び損傷  
(ヘ) 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変及び公害・塩害・ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷  
(ト) 消耗部品等（下記記載）及び消耗部品の消耗によって生じた二次的故障及び損傷

消耗部品等

タイヤ・チューブ・バルブ・ギアワイヤー・ブレーキワイヤー・チェーン・リム・スポーク・ニップル・ハブ軸（内装ギア含む）・ギアクラック・スプロケット・ブレーキパッド・グリップ・カゴ・サドル・ベル・スタンド・ドレスガード・ペダル・カギ・リフレクター類

- (チ) レース等の酷使による故障及び損傷
  - (リ) クギ・ピン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ等により生じたパンク
  - (又) 保証書のご提示かない場合
  - (ル) 保証書はお買い上げ年月日・お客様名・販売店名の記入捺印がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合  
\*但し購入時、購入年月日・製品名（品番）・販売店名の記入がない場合は、納品書などの製品名（品番）購入年月日・販売店名が記載されたものをご用意ください。
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
  - 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
  - ご相談窓口は下記をご参照ください。

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。

### ※本規定の変更

当社は、お客様への事前の通知およびその承諾なしに本規定の内容を変更できるものとします。この場合、本保証書の提供条件は変更後の規定によるものとします。なお、変更後の規定については、当社ホームページにより通知するものとします。



株式会社 カイホウジャパン

〒192-0903

東京都八王子市万町10-1

TEL：042-686-3645（サポートセンター）

受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）10～17時

～メモ～